

日中対照言語学会会報 (No.28)

2014年8月7日(金)発行

会報担当: 続三義

加藤晴子

目次

1. 7月常務理事会拡大会議(2014年7月19日)議事録
 2. 日中対照言語学会第32回大会原稿募集
 3. 5月、7月月例会報告
- ※ 事務局より

1. 7月常務理事会拡大会議(2014年7月19日)議事録

日時: 2014年7月19日(土) 16:30~17:30

場所: 東洋大学8号館125記念ホール特別会議室

出席者: 続三義、王学群、高橋弥守彦、安本真弓、椿正美、石井宏明(敬称略)

① 月例会の進行スケジュール

続三義理事長と王学群事務局長とが協議のうえ、以下の提案をし、出席者全員で確認した。開催場所は4月、6月、7月は東洋大学、10月、11月、1月、2月は大東文化会館とする。発表者をアレンジする世話役は、4月は王学群と続三義、6月は王学群、7月は王学群と王亜新、10月は高橋弥守彦、11月は高橋弥守彦と加藤晴子、1月は高橋弥守彦、2月は高橋弥守彦、安本真弓が担当する。

5月と12月は大会があるため、月例会は開催しない。9月と3月は発表者がいれば開催する。場所は東洋大学か大東文化会館とする。

② 2014年度冬季大会の開催に関する事項の確認

以下のことが確認された。

大会開催日12月7日。場所は大阪産業大学。関西の副理事長、常務理事に一任する。本年度は特集号を発行する年ではないため、冬季大会の主題は特には定めない。

大会費用のうち、学生のアルバイトに支給される金額の領収書は合計ではなく、明細をはっきりさせる。アルバイト代6,000円/1日、食事代500円とする。

大会の際、開催される常務理事会の出席者には弁当を提供し、その手配を関西地区常務理事に依頼する。

大会の発表者の募集を行う。発表者は、2014年10月7日(火)までに、理事長続三義、事務局長王学群までに連絡するように。下記の知らせを参照。

③ 学会誌、特集の原稿募集の進捗状況

以下の点を参加者全員で確認した。

両誌はともにまだ締め切り前。特集号に関しては、特集テーマ以外の論文は原則却下するが、投稿された論文数が少ない場合、再度検討する。

④ 古いホームページドメインの購入について

上地宏一常務理事から、学会のホームページに関して、古いドメインを購入するかという相談が王学群事務局長にあった。常務理事会当日、上地氏が所用のため出席できず、書面による報告があった。学会の新ホームページが立ちあがったばかりの時、「日中対照言語学会」は検索の上位になかなか出てこなかったため、古いドメインが購入できたら、という発想があったと思われる。最近会員の努力もあり、上位に出てくるようになってきている。したがって、古いドメインの購入は必要でないと、出席者全員で確認した。

⑤ 学会誌の送付など

学会誌の送付に関して、竹島毅常務理事（校務のため欠席）より、書面にて報告され、出席者全員で確認した。

学会誌 16 号の送付について、5 月 25 日（日）春季大会当日にて配布した 32 冊と、7 月 19 日までにさらに 47 名の会員に送付している。そのうち、住所不明で 2 冊が戻っているが、現段階では 77 名の会員に送付したことになる。

北京支部への発送は 10 月下旬に行う予定。

学会誌の送付に関して、連絡が取れている学会の顧問の方々への送付はどうなっているか、確認する必要があるが、連絡が取れる全員に送るようにする、ということが全員で確認された。

⑥ 2014 年度の会費納入について

竹島毅常務理事から書面で、椿正美会計係からは口頭で以下の報告があった。

春季大会日に 32 名の納入あり、その後、7 月 19 日までに更に 47 名の納入があった。合計、79 名納入している。特に会費納入に関する振込用紙の送付に関して、会員から、社会人なのに、院生用の 2000 円会費の振込用紙を送られたという苦情があり、確認の結果、全部で 7 名の会員が間違った振込用紙を受け取っていることが明らかになった。事務局から、新たな振込用紙とともに、詫び状を添えて再送付した。学会執行部として、関係者にお詫びをし、今後こういうことがないように、務めて行きたい。

今後のことに関して、王学群事務局長と竹島毅常務理事、椿正美会計係の三者で対応を協議し、決まった対応策を続三義理事長に報告するとする。

⑦ 関係学会との提携について（ホームページのリンクなど）

続理事長より、関係学会との交流を図るため、中国の中日対比言語研究会のホームページと相互リンクすることを提案し、これから関係学会との協議をすることが了承された。

⑧ 名誉会員、顧問に関して

高橋弥守彦常務理事から、学会の名誉会員や顧問の推薦の件に関して提案があり、これから、続理事長と高橋常務理事が具体的な事項について相談していくことが確認された。

2. 日中対照言語学会第 32 回冬季大会研究発表の募集

2014 年度冬季大会は 12 月 7 日（日）、大阪産業大学梅田サテライトで開催されます。研究発表を希望される研究者・院生の皆様は 2014 年 10 月 7 日（火）までにテーマと要旨(500 字前後)を続三義 (xu_sanyi@toyo.jp)、王学群 (ohgakubun@toyo.jp) のいずれかまでお申し込みください。

3. 5 月、7 月月例会報告

■5 月の定例会報告

2014 年 6 月 21 日(土)の 6 月例会、王学群会員は東洋大学 8 号館第 2 会議室にて「形容詞+着 zhe」のふるまいについて」という題で、報告を行った。報告の要旨は以下の通り。

中国語の“着”は、“動詞+着”のかたちで動態助詞としてよく用いられるだけでなく、“形容詞+着”というかたちでもよく用いられる。本稿では、“形容詞+着”の基本的な意味、非主文の述語に用いられ場合(付帯状況、手段・方式、因果関係など)、命令的な意味構造、意志性、程度的なレベルを強める場合、形容詞の類との関係、差額表現と存在表現、動詞と形容詞の境界線、文構造・コンテクストによる“形容詞+着 zhe”への影響などを中心に考察し、そのふるまいをある程度明らかにした。本稿では“着 zhe”が“形容詞+着”の中で、基本的に「ある状態にあること」を表すと認めた。

ところで、本稿の考察はまだ初歩的なもので、“形容詞+着”をめぐっての幾つかの意味用法の中で、どこまで“形容詞+着”と認めるのか、また、幾つかの意味用法の中で“着”がどんな働きをしているのか、“形容詞+着”というかたちで使われる形容詞が限られていることなどを一層明らかにするのが本稿に課す課題であろう。

■ 7月の定例会報告

2014年7月19日(土)の7月例会、高橋弥守彦会員と洪安瀾会員は東洋大学8号館125記念ホール特別会議室にて、それぞれ「日中対照関係から見る受身文の受け手と仕手との関係について」と「“种了树”が『近』、“种着树”が『遠』について」という題で、報告を行った。両論文の要旨と関係報告は以下の通り。

① 「日中対照関係から見る受身文の受け手と仕手との関係について」(高橋弥守彦)

筆者の調査では、下記の例文に見られるように、受身文の「受け手主体」は一般にヒト、モノ、コト、組織など(ヒト:例1, 2, モノ:例3, コト:例4, 5)であり、「仕手客体」もヒト、モノ、コト、組織など(ヒト:例1, 組織:例2, 自然力:例3, カラダ:例5, 無:例4)である。

(1) ある薄曇った朝、菜穂子は夫と母に付添われて、中央線の汽車に乗り、その療養所に向った。(『菜穂子』p.52)

一个天空布满薄云的早晨，菜穂子在丈夫和婆婆的陪同下，搭乘中央线列车上那个疗养所去了。(同上、p.53)

(2) 脳内出血の妊婦(36)が 八つの病院に受け入れを拒まれ、亡くなった。(『天声人語②』p.215)

一位脑出血的孕妇(36岁)因被8家医院拒收而死亡。(同上、p.220)

(3) スーパーの日よけのパラソルが、強風で飛ばされる。その直撃を受けて女性が死亡するという痛ましい事故が大阪で起きた。(『天声人語①』p.230)

一家超市的遮阳伞被大风刮了起来，撞死了一名妇女。这是发生在大阪的一桩惨事。(同上、p.232)

(4) 去年8月には、あのオックスフォード辞典の新版に「tamagotchi」が採用された。(『天声人語』p.146)

在去年8月出版的那部牛津词典的修订本中收入了“tamagotchi”(电子宠物)一词。(同上、p.149)

(5) 家宅捜査は、夜を徹して行われた。それは、四方八方からの多くの目にもさらされていた。(『天声人語①』p.321)

搜查进行了一个通宵。它暴露在众目睽睽之下。(同上、p.329)

本発表では、受け手と仕手となるこれらの名詞を下記の10項目に分類し、項目ごとに両者の関係を分析し、受身文の意味構造「受け手+仕手の影響を受ける行為や感情など」を確認するとともに動詞の働きを検討した。これにより、受身文は受け手も仕手も「無」である場合が一番多いことが明らかになった。両者の関係を意味する受身義を表す意味構造には問題がないことも判明した。動詞はヒトの動作やそれに疑似するものが多かった。

[表3] 名詞の分類

名詞	— 生命体：ヒト(動物も含む)、カラダ、植物(全体・部分)、組織
	— 非生命体：モノ、コト、心力(理性・感情・感覚など)、自然力(水・火・風・雷・音など)、空間、時間

質疑応答：日本語の受身文分析に傾きすぎる傾向にあるという質問があった。

今回は日本語の受身文分析なので、その傾向があるが、中国語を付すことにより、両者の特徴が現れるとともに、別稿では中国語の受身表現の分析もすでにしてあるので、それらを比較することにより、日中両言語の受身表現の特徴を垣間見ることができる。

②「存在文における動態助詞“了”“着”について」(洪安瀾)

本稿は存在文における動態助詞“了”“着”について分析した。

まず“种树”のような一つの出来事の中には、動態の段階があれば、静態の段階もあると考えられる。存在文の構造は出来事の「静態」の段階を意味する。そして、文は“着”又は“了”を用いる場合、静的な持続的な意味を表す。

“V+了”の場合では話者は出来事の実現をまとめているので、存在も含意している。このような場合では、出来事の動的な段階は近く感じられる。

“V+着”の場合では、話者が目の前の状況を描写しているので、出来事の動的側面は一つ前の段階だと考えられる。このような場合、話者が目の前の存在を報告すると同時に、過去にあった出来事のことを含意していると思われる。“V+着”は“V+了”より、遠く感じられる。

しかし幾つかの問題が残る。一つ目は存在する時間の「遠」と「近」の定義についてのことである。確かに先生方が指摘されたとおり、「遠近感」についての分析はあくまでも「話双方の語感」のレベルに止まっている。論文を書く最初の目標は“了”、“着”存在文の間にある「遠近感」を説明しようとするものであるが、「遠」と「近」は全部ネーティブスピーカーの語感による基準であった。論文を書く際、より科学的な基準を設けないといけないので、今後、談話双方の関係や、共有の情報についてもっと研究してみたい。

参加者からの二つ目の質問は用例に関するもので、中国語の原文に筆者訳文をつけたが、訳文は筆者の都合のいいように翻訳した嫌いがあるので、やはり日中対訳の原文がより説得力があるという指摘だった。

今回の発表に現れる問題はまた幾つかある。

これから引き続き、研究を重ねて行くつもりで、いろいろとご指摘いただき、ありがとうございました。

事務局より

- 1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長 (Lwn365@yahoo.co.jp)、または竹島毅常務理事 (sisi@kkd.biglobe.ne.jp) までご連絡をください。年間会費は社会人 4,000 円、院生 2,000 円となっています。皆さんの入会を歓迎いたします。
- 2) 毎月の例会の開催は、郵送ではなく、メールにてご連絡させて頂いております。不明の方がいらっしゃいますので、ぜひお知らせいただきたくお願い申し上げます。また、メール変更につきましても、同様にお願い申し上げます。
- 3) 年間会費の納入について
2014 年度の大会開催時に年間会費の納入を受け付けております。また、都合により出席されない会員に対しては次号の会報から請求書を送付させていただきますので、ご納入のほどよろしく願いいたします。

お詫び： 先日、2014 年度の会費振込用紙を送付した際に、一部の社会人会員の方に誤って院生用の振込用紙を送ってしまいました。これにより、ご迷惑・ご面倒をお掛けし、誠に申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。